



『おてて だあれ?』

作／ふくながじゅんべい 絵／たかしまてつを
1,000円 (KADOKAWA)

手を合わせてカニやイヌを作ってみましょう。大きなおててと小さなおててを合わせれば、いろいろな動物の形も作れます。親子でチャレンジしてみてください。



『あかちゃん』

作／tupera tupera
1,200円 (プロンズ新社)

まん丸顔の赤ちゃん。ふつくらクマさん、ボールもまん丸。丸いものが次々に出てきますよ。おやおや、赤ちゃんが泣いてしまいました。おなかがすいているのかな?

赤ちゃんと
遊ぼう

「いないいないばあ」や、
手と手を合わせるだけでも
楽しい遊びに。



ねえ
ねえ
こんな
かお
できる?



『こんなかおできる?』

作／礪 みゆき
850円 (ひさかたチャイルド)
こんな顔できる? 舌を出して「ペー」。ほっぺをギュウツと寄せて「ムギュツ」。「できるよ、できるよ」と動物たちもマネをします。楽しくマネっこ遊びでみんなニッコリ。



新刊

『そっくりこ』

文／中川ひろたか
絵／村上康成
880円 (ひかりのくに)

赤ちゃんの鼻にちょこんと触れて「ここは お父さん そっくりこ お父さんのお鼻にそっくりこ」など、お父さんやお母さんに似ている部分をひとつずつあげていきましょう。



新刊

『かお かお ばあ』

作／山口真美 実験監修／金沢 創
絵／ミスミヨシコ
980円 (KADOKAWA)

にっこりお顔に、へーんにやりお顔。おめめ、くーる、くるりん、きよろきよろ。ページいっぱい広がるいろいろな顔。赤ちゃんは顔に興味津々ですね。

絵本作家さん こんにちは！

いろいろなあれもこれも



『いろいろあ』
などでおなじみ！

新井洋行さん

紙を束ねて頭から読む、 これまでの本の形にとらわれたくないんです

シンプルでかわいい絵、パツと目を引く鮮やかな色使いや意表をつく仕掛け。これまでに200冊を超える作品を生みだし、今も年間10冊以上を刊行する新井洋行さんのバイタリティとアイデアの源は、いったいどこにあるのでしょうか？ 撮影／石川正勝

PROFILE

あらい・ひろゆき
1974年東京都生まれ。東京造形大学デザイン科卒業。ゲーム会社でデザイナーとして勤務するが、「これまでにないような絵本をつくりたい」と退社。2007年に『ソケットとおとのまほう』（フレーベル館）で念願のデビューを果たす。

絵本のアイデアは向こうから頭の中にやってくる

新しい作品を数多く出していきますが、企画を考えてラフをつくるのがいちばん好きです。絵を描く実作業をしながら、次の企画を立ち上げ、編集者さんにプレゼンして練り上げていく、を並行してできるのは、われながら、なかなかだなあと（笑）。

言葉や絵やデザインを、部品として考えなくなってきたのかもしれません。もちろんそれらは、読者の方に絵本を感じてもらうために必要な大事な部品です。以前はそれらをひとつずつ吟味していたのが、今は絵本のイメージがわいたときに、具体的に絵本そのものが頭の中にやってくる感じ。昔はもっとぼんやりしていました。「ああ、こんな絵本がつくりたい」って、ワクワクするキラキラくんがいて、それを手に入れるために、さぐりながらやっていましたが、今はあまり迷わないです。

そこで編集者さんが「天才じゃないんだから、もつとがんばれ」って、どんどんハードルを上げてくるんですけどね。



絵本から考えようSDGs

SDGsの17の目標ごとに絵本を探してみるのもいいけれど、もっと大きなキーワードを考えてみると、絵本の楽しみも、学びの幅も広がります。地球のこと、身近な自然のこと、私たちの社会や暮らしのこと、遠い国に暮らす人たちのこと。小関さんとともに活動する前田君江さんに4つのキーワードで絵本を選んでもらいました。

1 多様性

自分とちがう人たちがいることや、ちがう人たちを理解することは、面倒くさいことかもしれない。

でも、この地球上には、つねに種類だけではなく、いろんな生きものたちが生きています。もし同じ性質の生きものだけだったら、わずかな環境の変化で絶滅してしまったかもしれません。生きものたちは互いに異なっているからこそ生きのび、限られた環境をシェアしてきました。人間の世界は、どうでしょうか。



『干潟のくちばしじまん』

文／今宮則子 絵／小島祥子
監修／今泉忠明 1,300円（星の環会）

月の引力による潮の満ち引きで、海でもあり陸でもある「干潟」。そこに集まる鳥たちは、「とがったくちばし」や「ひらたいくちばし」でそれぞれ別々の生きものを捕まえて食べています。互いにちがうって、面白い! 「干潟もまた生きているのです」と解説者は語ります。



『みんな おなじ でも みんな ちがう』

文／奥井一満 写真／得能通弘
AD／小西啓介
900円（福音館書店）

見開きページいっぱい並んだ、ひまわりの種。いっぱい並んだ、うずらの卵。どれも同じ種類のはずなのに、同じ模様・同じ形のものはひとつもありません。単純な発見がこんなに奥深く楽しいなんて、驚きです。



『レッド』

作／マイケル・ホール 訳／上田勢子
1,500円（子どもの未来社）

クレヨンの「レッド」は、赤く塗るのが苦手です。赤い紙が巻かれた青いクレヨンだからです。みんなに、「なまけているんじゃないか」「もっとがんばれ」と言われながらも、「レッド」は自分の本当の色に気づきます。性的少数者(※)を知るための児童書リスト「レインボーリスト」に選ばれた絵本ですが、すべての人にとっての「自分自身の物語」です。



前田君江 まえだ・きみえ

東京大学教養学部非常勤講師。ヘルシア語翻訳者。英語絵本の訳書に、『ラマダンのお月さま』（解放出版社）、『イードのおくりもの』（光村教育図書）など。『絵本フォーラム』紙に絵本紹介のコラム「遠い世界への窓」を連載中。

※国連で採択されたSDGsの目標には、「ジェンダー平等」は掲げられていますが、LGBTQ（性的少数者／性的マイノリティ）に関する文言はありません。それぞれの国でさまざまな立場をとっているため、共通目標とすることができなかったのです。でも、大切な問題であることには変わりありません。

『はがぬけた に〜』

作／フィリケえつこ
1,000円(あすなろ書房)



ひとつ年上のお友だち、まなちゃんやお兄ちゃんの歯が抜けて、ちょっぴりうらやましい私。歯が抜けて便利なこともある？ 歯が抜けないとわからないこともある？ 歯が抜けたことで、少し大人の気分になりました。

『もし地球に植物がなかったら？』

作／きねふちなつみ
監修／真鍋 真、ジョン・ブルタン
1,500円(あすなろ書房)



植物は、大昔からずっと、地球の生きものの「いのち」を支えてきました。植物の働きでできたオゾン層に守られて、動物も植物も進化してきました。その壮大な進化の歴史を知ることができます。

『かべのすきま』

文／中西 翠
絵／澤野秋文
1,400円(アリス館)



ほくひとりの夜、壁から出ている糸みたいなものを引っばしてみると、壁のすきまから、派手なおばちゃんが3人出てきました。一緒に菓子を食べたり、おしゃべりしたりして、仲よくなりました。

『きほんの木 大きくなる』

写真／姉崎一馬
文／姉崎エミリー
1,500円(アリス館)



木は、地球でいちばん大きくなる生きものです。数ある日本の木の中で、特に大きくなる10種類を、美しい四季折々の写真とともに紹介します。豊かな自然が木を大きくすることや、木と人の関わりもわかります。

『ふゆのはな さいた』

文／安東みきえ
絵／吉田尚令
1,500円(アリス館)



はじめて冬を迎えたネズミが、池に涙を落していたら、金魚の声がしました。泣くのが嫌いな金魚は、ひとりぼっちだと思っているネズミの話を聞いてくれました。寒い朝、氷がはった池に金魚の姿が見えませんでした。

新刊

100!!

もう
読んだ？

2019年9～11月に発売された新刊絵本の中から、読みきかせにもおすすめの100冊を選びました。子どもたちとすてきな時間を過ごしてください。

※出版社五十音順

🍼 マークは乳幼児から、🎵 は中・高校生も楽しめる本です。

定期購読者限定プレゼント🎁

新刊絵本プレゼントの詳細は、このページの下欄をご覧ください。

『くまくまパン いちにちパンやさん』

作／西村敏雄
1,300円(あかね書房)



くまさんのパンや「くまくまパン」に、うさぎちゃん、ぶたくん、りすくんが見学に来ました。パンの作り方を教わりますが、りすくんは手が小さくて上手にできません。そこでくまさんが、子どものころの話をしてくれました。

『なんでもモッテルさん』

文／竹下文子
絵／アヤ井アキコ
1,400円(あかね書房)



カッテル・モッテルさんは、なんでも買ってなんでも持つてのお金持ち。丘の上のお屋敷は、いろいろなものであふれています。ある日のこと、大嵐がやってきましたが、モッテルさん一家は避難しようとしません。

『ぼくはくるま、みんなもくるま』

作／高橋祐次
1,300円(あかね書房)



ぼくは、クラクションを鳴らせない車。そこで友だちがラッパをくれました。うれしくてラッパを吹いたけど、まわりのみんなに笑われてしまいました。逃げだしたぼくがたどりついたのは、ラッパを持った車ばかりの町でした。

見返し美人



いつもは、表紙を開いた最初のページの美しさをお披露目しているこの企画。
今回は、ちょっと趣向を変えて、カバーをとると趣の異なった表紙が現れる、美しい絵本をご紹介します。

タイトルイラスト／アンヴィル奈宝子



『おろろん おろろん』

作／石黒亜矢子
装幀／大島依提亜
1,300円 (偕成社)

おろろんとは、もののけたちの行列のこと。カバーをとると子どものもののけたちが行進しています。



『かわにくまがおこちた』

著／リチャード・T・モリス
絵／レウイン・ファム
訳／木坂 涼
装幀／山田 武
1,500円 (岩崎書店)

カバーをはずすと一面水色に。裏表紙も含めて、おこちた川の中の様子が描かれています。



『14ひきのひっこし』

作／いわむらかずお
装幀／上條喬久
1,200円 (童心社)

カバーでは正面を向いているのですが、表紙ではみんなが歩みだしています。このシリーズはすべて、カバーと表紙が微妙に異なっています。



連載

第44回

おはなしお婆さんの

おはなしのたねあかし



穴の中で暮らしている子ネズミたちは、母さんネズミから、タンポポやカエルなど、穴の外の話を聞いて、外に出たくてたまりません。その子ネズミを守るために、母さんネズミが勉強をしているのは？

イラスト／保坂あけみ

藤田 浩子

1937年東京生まれ。福島県三春町に疎開し、昔ばなしを聞いて育つ。幼児教育に携わりながらおはなしを語って50年。現在は西小岩幼稚園をはじめ、小学校や大学などでも小道具を使った楽しいおはなしを語り、大人向けの講演会のため全国を飛び回る毎日。

『ネズミの母さん』

あるところに、ネズミの母さんと5匹の子ネズミが住んでいました。子ネズミは、まだ生まれたばかりですから、穴の中で、毎日母さんネズミが運んでくるエサを食べていました。

母さんネズミは、外から帰ってくると、外の出来事子どもたちに話して聞かせるのです。

母 今日タンポポがたくさん咲いているところを通ったよ。

子 タンポポってなに？

母 タンポポはね、黄色くて、葉っぱはぎざぎざで、お日さまの子どもみたいな黄色い花。

子 ふうん、明日はそのタンポポを見に行ける？

母 まあだまあだ、もう少し大きくなったらね。

次の日、母さんネズミは外から帰ってくると、カエルの話をしました。

母 今日はカエルに会ったよ、田んぼの中にぴよんと飛び込んだの。

子 カエルってなに？

母 田んぼの中でゲコゲコ鳴いているの。

子 カエルにも会いたいなあ。

母 まあだまあだ、もう少し大きくなったらね。

次の日、母さんネズミは、外から帰ってくると、お日さまの話をしました。

母 今日は青い空に、お日さまがきらきらして、お花にも木にも、地面にも池にも、きらきらの光が注いでいたよ。

子 お日さまってなに？

子 光ってどんなもの？

子 池ってなに？

子 光を見たいなあ。

子 池も見たいなあ。

母 まあだまあだ、もう少し大きくなったらね。

次の日、母さんネズミは、外から帰ってくるとネコの話をしました。

母 今日はネコを見かけたよ。

プログラム (各10~15分) 小学校低学年

4月 テーマ: 友だちできるかな

①『わたしドーナツこ』

作/井上コトリ
品切れ中(ひさかたチャイルド)

友だちできるかな? はじめて小学校へ行く不安な気持ちもゆっくり溶けていくようなおはなしです。小さめの本なので、見せ方を工夫して。



②『したじきくとなかまたち』

作/二宮由紀子 絵/山村浩二
1,300円(アリス館)

したじきくんだって、はじめはドキドキ。下敷きってどうやって使うのかな? 学校で使う道具について話すのもいいですね。



5月 テーマ: どこへ行く?

①『かいくんのおさんぽ』

作/中川ひろたか
絵/荒井良二
品切れ中(岩崎書店)

学校にも慣れて、行動範囲が広がりはじめのころです。歩いて遠足に行く学校も多いですね。まずは、歩くのが楽しくなっちゃおうおはなしから。



②『ムニャムニャゆきのバス』

作/長 新太 1,400円(偕成社)

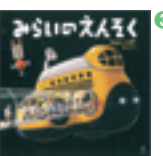
バスに乗って出かけたり、遠足へ行くのもバスだったり。行き先は、ムニャムニャ。



③『みらいのえんそく』

作/ジョン・ヘア
文/椎名かおる
1,400円(あすなろ書房)

未来の遠足は、月へ行くかも?

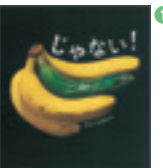


6月 テーマ: びっくりり!?

①『じゃない!』

作/チャーヒカル 1,400円(フレーベル館)

ちょっとびっくりりするおはなしで、雨の日も楽しくね。どうやって描いているのか、巻末を見せながら説明するとわかりやすいかも。



②『カエルくんのおひるね』

作・絵/宮西達也 1,200円(鈴木出版)

カエルくんがお昼寝していると……。『うわー』のところは、子どもたちに大きな声で言ってもらってもいいですね。



③『おばけのcockさん』

作/西平あかね 900円(福音館書店)

びっくりなメニューがいっぱい、おばけレストランのおはなしを最後に。夏はもうすぐ!



(石井澄子)



対象別おはなし会のプログラムです。
ここで紹介する絵本や紙芝居は、
ご家庭での読みきかせにもおすすめです。
ブックガイドとしても活用してください。

行事絵本・季節の絵本

ひなまつり

『おひなまつりのちらしずし』

作/平野恵理子
1,300円(福音館書店)

ひなまつりのちらしずしを、なおネエが作るのになって、ほくは心配です。お母さんの指導のもと、ちらしずし作りが始まりました。がんばれ、なおネエ! ほくも手伝うよ。



旅立ち

『空より高く CD絵本』

作詞/新沢としひこ 作曲/中川ひろたか
編曲/クニ河内 写真/石井麻木
1,800円(クレヨンハウス)

「人は空より高い心、海より深い心をもっている」と、30年にわたりたくさん子どもたちに歌い継がれてきた曲が、写真絵本になりました。きっかけは、3.11東日本大震災です。



紙芝居

『ぼく、まだねむいんだ』

脚本/おおたか 蓮 絵/相野谷由起
1,900円(童心社)

長い冬が終わり、「はるですよ」と母さんグマに起こされても、子グマは目を閉じたままです。リスやウサギやカエルに声をかけられても、また眠ってしまいそうです。



紙芝居

『すてきなともだち』

原話訳/鈴木千歳 脚本/中平順子
絵/尾崎曜子 1,900円(童心社)

ネズミとカラスとカメとシカが、仲よく暮らしていました。ある日、猟師のワナにかかってしまったシカを、それぞれの特技を生かして助けます。



紙芝居

『あおむし だれのこ』

脚本/与田準一 画/武智みつえ
1,600円(童心社)

春が来て、カラタチの葉っぱに、アオムシがいます。近づいてきた子どもたちの言葉に傷ついたアオムシは、お母さんを探しに出かけることにしました。



(安富ゆかり)